

子ども支援2団体に公益賞

名古屋キワニスクラブが贈る

会社経営者らでつくる社会奉仕団体「名古屋キワニスクラブ」は3日、社会公益のために尽力する団体や個人をたたえる今年の社会公益賞を、いずれも子ども支援のNPO法人「チャイルドラインあいち」(南

区)と「はんどいんはんど」(岩倉市)の2団体に贈った。今年で57回目。名駅のホテルで贈呈式があり、会員ら63人が参加した。

チャイルドラインあいちは21年ぶり2度目の受賞。電話やチャットなどで子どもの相談を聞く活動を続けている。高橋弘恵代表理事はあいさつで「子どもの悩みは時代とともに変化している。人工知能(AI)に負けない相談先になりたい」と語った。

病児保育事業などを行うはんどいんはんどは初受賞。原武之代表理事は、ボランティアで協力してくれるメンバーらに対し「皆さんの活動は地域の子育てにとって大きな意義がある」と感謝を述べた。

キワニスクラブは同日、本好きの子どもを育てる活動として、名古屋記念病院小児科(天白区)、市中央児童相談所(昭和区)、ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや(昭阳区)に、計476冊(総額69万円相当)の児童書や絵本を贈呈した。(田村貴也)



社会公益賞を贈呈された団体の代表ら＝名駅で

社会貢献 NPO 2 法人表彰

名古屋の奉仕団体 3 施設に本贈呈



社会公益賞、キワニス文庫を贈られた団体の代表者たち(3日、名古屋市中村区で)

子どもたちのための奉仕活動を展開する「名古屋キワニスクラブ」(松井徹会長)は3日、社会貢献を続ける団体を表彰する「社会公益賞」と、子どもたちの本を贈る「キワニス文庫」の贈呈式を名古屋市内で開いた。

社会公益賞には、NPO

法人「チャイルドラインあいち」(名古屋市中南区)と、同法人はんどいんはんど(岩倉市)が選ばれ、各50万円が贈られた。

名古屋記念病院(名古屋市中天白区)、名古屋市中心児童相談所(同市昭和区)、公益財団法人「ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや」(同区)には、絵本や図鑑、童話など計476冊が贈られた。

贈呈式で松井会長は「子どもたちを取り巻く課題が複雑化している今だからこそ、地域に根ざした奉仕の精神が一層求められる。今後のますますの発展と活躍を祈念する」とあいさつ。

受賞団体の各代表は「皆様の厚志を大切に活用したい」とお礼の言葉を述べた。

社会公益賞・キワニス文庫の贈呈式

名古屋キワニスクラブ

2団体表彰、児童書は3施設に

名古屋キワニスクラブ(松井徹会長・住友理子特別顧問)は3日、名古屋市中村区の名古屋マリOTTアソシアホテルで「第57回社会公益賞」と「第52回キワニス文庫」の贈呈式を行った。社会公益賞は児童福祉に関わる2団体を表彰し、活動資金として各50万円の副賞を贈呈。キワニス文庫は、困難な状況にある子どもたちを支援する3施設に、児童書などの図書、合計476冊(69万円相当)を寄贈した。(吉川英司)

同クラブは、「幼い子どもたちのための奉仕活動」活動を行う中部財界人有志



社会公益賞、キワニス文庫の贈呈式



あいさつする松井会長

による慈善団体。社会公益賞は年一回、地域で児童福

社に携わるさまざまな団体を、会員の推薦、審査により表彰。キワニス文庫は、同じく審査で選ばれた病院や児童福祉施設などに、施設側が希望した児童書を寄贈している。

冒頭あいさつで松井会長は「本年は当会の設立60周年。子どもたちを取り巻く環境は変化し、ますます厳しさを増している」と述べた。

今回、社会公益賞には、特定非営利活動法人チャイルドラインあいち(名古屋市長高橋弘恵代表理事)と、特定非営利活動法人はんどいんはんど(岩倉市、原武之代表理事)を選んだ。チャイルドラインあいちは、子どもたちからの相談に、電話やオンラインチャットなどで応じている。はんど

いんはんどは、受け入れ先が少ない病気の子どもの対象とする保育や、家庭訪問型子育て支援に取り組んでいる。

はんどいんはんどは、原代表理事は「私たちの活動が必要となるのが理想だ」と話した。

キワニス文庫は、社会医療法人名古屋記念財団名古屋記念病院小児科(名古屋市長谷川真司院長)、名古屋市中中央児童相談所(名古屋市長谷川真司所長)、公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのドナルド・マクドナルド・ハウスなごや(名古屋市長谷川真司所長)、持田由美子ハウスマネージャーの3施設に寄贈した。

このうち、ドナルド・マクドナルド・ハウスなごやは、名古屋大学医学部付属病院の敷地内で、病気の子どもと付き添い家族が生活できる滞在施設を提供している。



感謝の言葉を述べるドナルド・マクドナルド・ハウスなごやの持田ハウスマネージャー



寄贈した児童書の一部

持田氏は「多くの方からの寄付金と、地域のボランティアスタッフで運営している。自宅と病院の二重生活は、家庭にとって精神的、経済的な負担が大い。ためらわず利用していただければ、今年4月から利用料金を無料にした。図書は子どもたちの不安をやわらげ、心を温めてくれる大事な贈り物」と感謝した。